

ぎのうさくべえねんびょう
義農作兵衛年表

われき 和暦	せいき 西暦	ねんれい 年齢	できごと
げんろくがねん 元禄元年	1688年		つついむら 筒井村（今の松前町筒井）の ^{まず} 貧しい農家に生まれる。
しょうとく 正徳元年	1711年	23歳	タマと結婚する。
正徳2年	1712年	24歳	母、ツルが ^{びょうき} 病気で亡くなる。
正徳4年	1714年	26歳	ちやうなん きくいち 長男、作市が生まれる。
きやうほう 享保2年	1717年	29歳	ちやうじよ 長女、カメが生まれる。 さくべえは、40歳くらいまでよく働き、自分の ^{たはた} 田畑（自作地）をおよそ33アール、地主から借りている田畑（ ^{こさくち} 小作地）をおよそ15アール持つようになる。 ※1アール…一 ^{いっぺん} 辺が10メートルの ^{せいほうけい} 正方形の ^{めんせき} 面積
享保16年	1731年	43歳	つま 妻、タマが病気で亡くなる。
享保17年	1732年	44歳	西日本は、5月頃から ^{つづ} 続いた ^{ながあめ} 長雨や ^{こうずい} 洪水、 ^{たいりよほっせい} ウンカの大量発生などで ^{こめ} 米や ^{むぎ} 麦などの作物が育たず、 ^{まつやまはん} 松山藩では、およそ3,500人が餓死した。（享保の大飢饉） 6月 父、 ^{さくへい} 作平が餓死する。 8月 長男、作市が餓死する。 9月23日 作兵衛は ^{むぎだね} 麦種を残し餓死する。 10月 長女、カメが亡くなる。 12月 松山藩の ^{しじ} 指示で作兵衛の ^{ぼひ} 墓碑が造られる。
あんえい 安永5年	1776年		松山藩の ^{とのま} 殿様、 ^{まつだいらさだまよ} 松平定静は、作兵衛の生き方を後の世にも伝えるため「義農」という名前を付け、 ^ひ 碑を作らせる。このことから「義農作兵衛」と呼ばれる。
めいじ 明治14年	1881年		義農 ^{じんじや} 神社が建てられる。
たいしょう 大正2年	1913年		義農 ^{せいしん} 精神を受け継ぐためにつくられた「義農会」により、 ^{しょうとひ} 頌徳碑が建てられる。見返り石には、 ^{みかえ} 内大臣であった ^{いし} 平田東助の文が ^{まじ} 刻まれる。 ※頌徳碑…世のため人のために良いことをした人を ^{ほめ} 誉め 称え、感謝し後の世に伝えるための碑
しょうわ 昭和32年	1957年		今の義農神社が建てられる。義農 ^{こうえん} 公園が造られる。 毎年、4月23日を義農祭の日として、盛大に ^{くよう} 供養やお祭り ^{まつり} が行われている。

